

1. 件名「新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（東海第二（168）」
2. 日時：平成29年6月5日 13時30分～16時30分
3. 場所：原子力規制庁 18階A会議室、C会議室
4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

山口安全管理調査官、金子管理官補佐、皆川安全審査官、
高嶋原子力規制専門員

（安全技術管理官（システム安全担当）付）

小野主任技術研究調査官、酒井主任技術研究調査管、江口技術研究調査官、
江畑技術参与、増原技術参与、小西技術参与

（安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付）

小城技術研究調査管

事業者：

日本原子力発電株式会社：福山執行役員 発電管理室室長（他16名）

東北電力株式会社：女川原子力発電所 環境・燃料部 担当

中部電力株式会社：原子力本部 原子力部 運営グループ 主任

北陸電力株式会社：原子力本部原子力部 原子力安全評価チーム 主任

中国電力株式会社：電源事業本部 担当課長（原子力安全）

電源開発株式会社：炉心・安全室 安全技術タスク 担当

5. 要旨

- (1) 日本原子力発電株式会社から、『東海第二発電所 重大事故等対策の有効性評価』を用いて、東海第二発電所の重大事故等対策の有効性評価（運転停止中原子炉）のうち、「崩壊熱除去機能喪失」、「全交流動力電源喪失」、「原子炉冷却材の流出」及び「反応度の誤投入」の対策について説明があった。原子力規制庁から主に以下の点について指摘を行った。

【崩壊熱除去機能喪失】

- 重大事故等対策の概略系統図について、実機との整合性も踏まえ、待機除外や解析上考慮していない機器等を整理した系統図を提示すること。
- 残留熱除去系（原子炉停止時冷却系）の機能喪失の確認手段を整理した資料を提示すること。
- 定期検査中における事故時の作業員の原子炉格納容器外への退避について、具体的な退避に係る運用を整理するとともに、事象進展との関係で待避完了が必要となる期間を整理した資料を提示すること。

- 評価上想定しているプラント状態（POS : Plant Operational State）は POS-Aとしているが、当該プラント状態を想定している考え方を整理した資料を提示すること。
- 事故対応のために準備している燃料について、これの消費を評価上考慮する機器の考え方を整理した資料を提示すること。

【全交流動力電源喪失】

- 安全機能の喪失に対する仮定について、考え方を整理した資料を提示すること。

【反応度の誤投入】

- 解析上考慮していない「原子炉出力ペリオド短（20秒）」における制御棒引抜阻止を期待した場合のその後の手順を整理した資料を提示すること。
- 「原子炉出力ペリオド短（20秒）」に期待していないことを含めて、評価条件の設定の考え方を整理した資料を提示すること。
- 初期条件における原子炉冷却材温度の設定について、この設定の考え方を整理した資料を提示すること。
- ドップラ反応度に対する不確かさ評価について、不確かさの影響を整理した資料を提示すること。

（2）日本原子力発電から、本日の指摘について了解した旨の回答があった。

6. その他

提出資料：

- ・ 東海第二発電所 重大事故等対策の有効性評価
- ・ 東海第二発電所 重大事故等対策の有効性評価 補足説明資料
- ・ 東海第二発電所 重大事故等対策の有効性評価 全交流動力電源喪失（崩壊熱除去機能喪失） 比較表
- ・ 東海第二発電所 重大事故等対策の有効性評価 全交流動力電源喪失（全交流動力電源喪失） 比較表
- ・ 東海第二発電所 重大事故等対策の有効性評価 全交流動力電源喪失（原子炉冷却材の流出） 比較表
- ・ 東海第二発電所 重大事故等対策の有効性評価 全交流動力電源喪失（反応度の誤投入） 比較表